

平成28年12月期 決算説明資料

「世の中にない」「真に役立つ」
それが、私たちの研究開発の出発点です。

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

 **興研株式会社**

営業の経過及び成果

当連結会計年度(平成28年1月～12月)における我が国経済は、海外経済の減速や為替変動の影響が成長率を下押しする一方、公的
需要の増加や個人消費の底入れに支えられ、緩やかな回復基調で推移したものの、中国経済、英国のEU離脱問題、米国のトランプ政権
決定の影響など、先行きの不透明感が更に拡大しました。

このような経営環境の中、当社グループでは「クリーン、ヘルス、セーフティ」の3市場に対する戦略商品の普及及び新規物件の受注活
動を継続して行った結果、前連結会計年度に比べ増収増益となりました。

売上高は79億36百万円(前連結会計年度比1.9%増)となり、利益については、海外生産子会社の本格稼働及び全社を挙げた業務効率
化なども寄与し、営業利益6億34百万円(同20.5%増)、経常利益5億54百万円(同23.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益3億88百
万円(同63.3%増)となりました。

セグメント別の業績は以下の通りです。

(マスク関連事業)

製造業向けを中心とした産業用の防じん・防毒マスクの販売は予想以上に堅調で推移しました。

また前年末からリフラクトリーセラミックファイバー対策用などで需要が急増した電動ファン付き呼吸用保護具「プレスリンク」シリーズの
販売が、売上高を押し上げました。

また使い捨て式マスクについても、医療用、一般用(中国向け含む)の需要増加に対応し売上を伸ばしました。その結果、当事業の売上
高は71億12百万円(同2.2%増)となりました。

(その他事業／環境関連事業等を含む)

オープンクリーンシステム「KOACH」の販売は『アクチュアルクリーン(実際の作業中の清浄度)』を訴求する営業活動を代理店、販売店
と協働して行った結果、ベンチ型の「スタンドコーチ」の民間企業での新規・リピート採用の増加などで、全体の成約数としては前年度を2割
程度上回りましたが、売上高については、前年度に納入したルーム型の大型物件(重力波望遠鏡施設かぐら)の反動減を補うまでには至
らず、当事業の売上高は8億24百万円(同0.4%減)となりました。

業績の概要（連結）

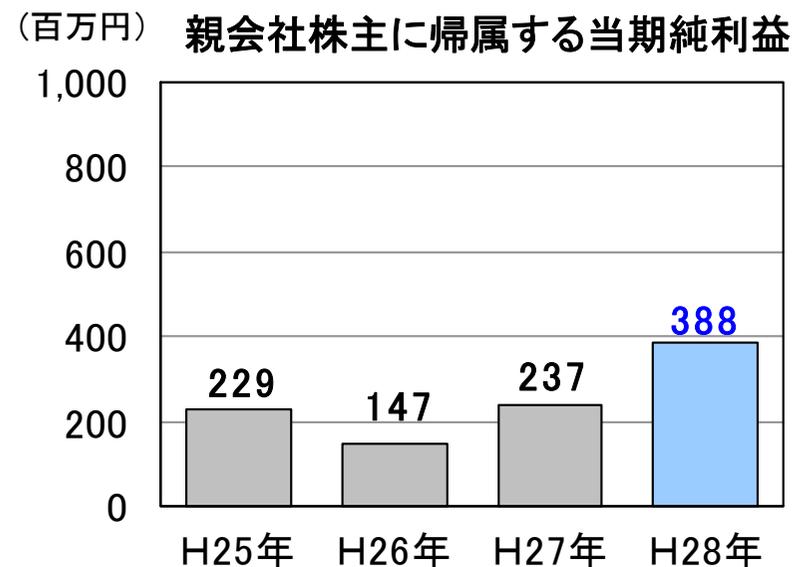
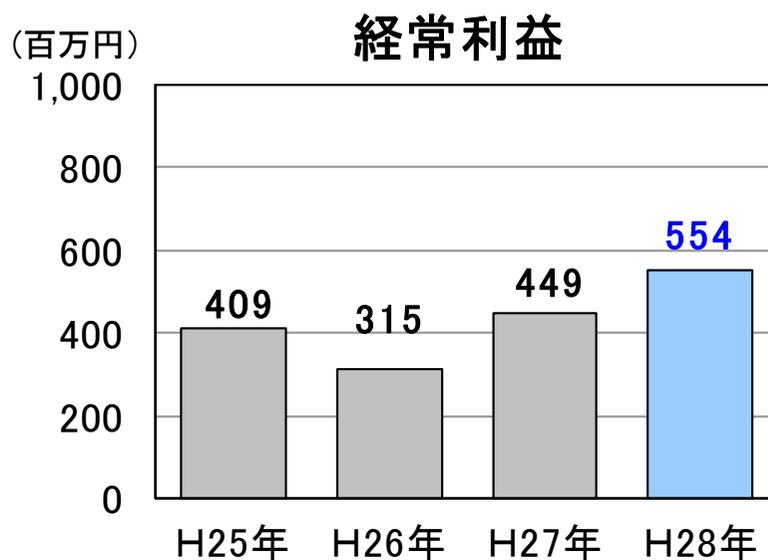
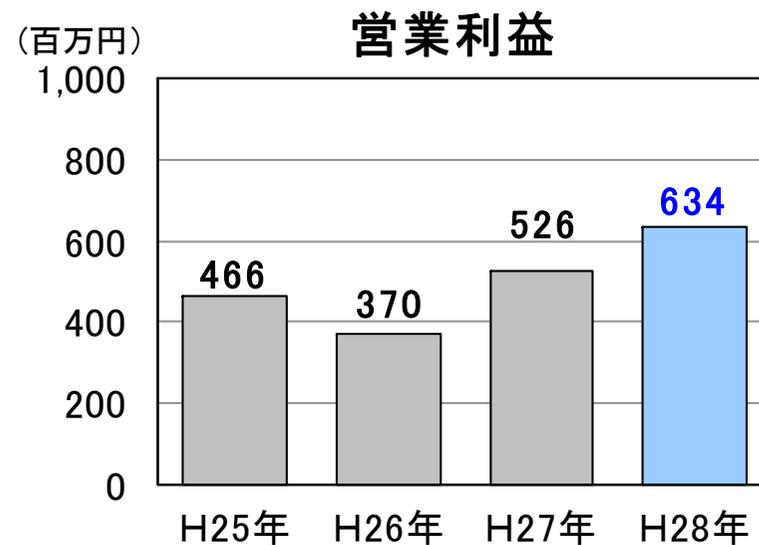
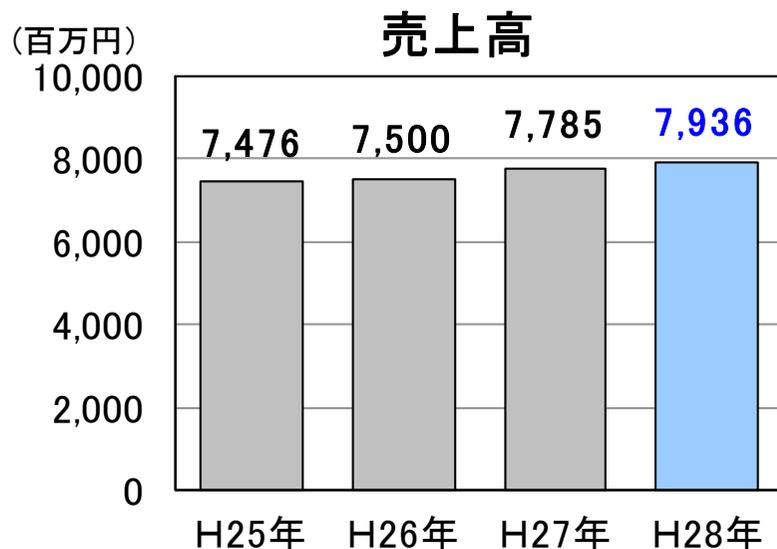
（単位：百万円／端数切り捨て）

| | 平成27年12月期 | | 平成28年12月期 | |
|-----------------|-----------|-------|--------------|-------|
| | 金額 | 比率(%) | 金額 | 比率(%) |
| 売上高 | 7,785 | 100.0 | 7,936 | 100.0 |
| 売上総利益 | 3,544 | 45.5 | 3,764 | 47.4 |
| 営業利益 | 526 | 6.8 | 634 | 8.0 |
| 経常利益 | 449 | 5.8 | 554 | 7.0 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 237 | 3.1 | 388 | 4.9 |
| 1株当たり当期純利益(円) | 46.84 | — | 77.23 | — |

| | 平成27年12月末 | 平成28年12月末 |
|-------------|-----------|-----------------|
| 総資産 | 16,294 | 16,504 |
| 負債 | 7,403 | 7,500 |
| 純資産 | 8,891 | 9,004 |
| 自己資本比率(%) | 54.2 | 54.2 |
| 1株当たり純資産(円) | 1,739.64 | 1,783.40 |

売上高・利益の推移

(単位: 百万円 / 端数切り捨て)

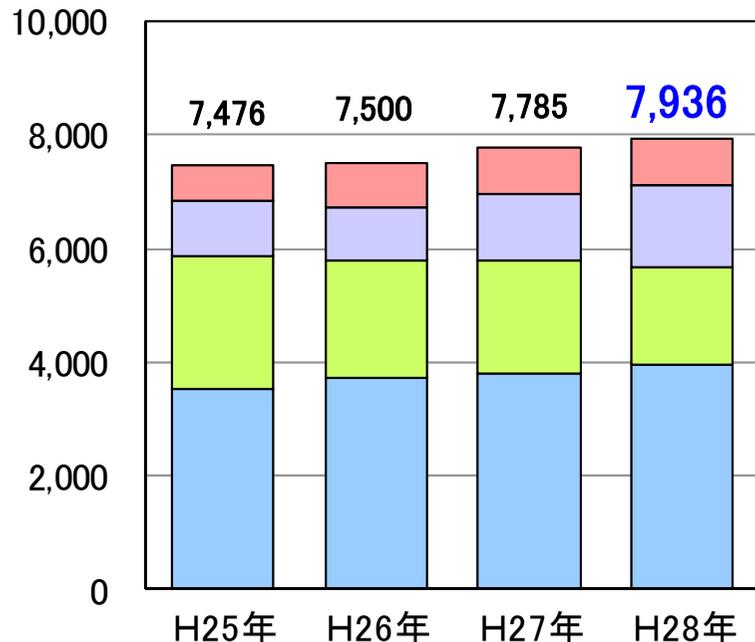


※平成26年12月期より、連結決算に移行しております。

セグメント別売上高の推移

(百万円)

(単位:百万円/端数切り捨て)



| 事業の状況 | |
|-------------------------------------|--|
| ■ マスク関連事業 (防じんマスク、防毒マスク、マスク関連その他製品) | 産業用の防じん・防毒マスクの販売は予想以上に堅調で推移し官需の減収分を補いました。また電動ファン付き呼吸用保護具や使い捨て式マスクが売上高を押し上げました。 |
| ■ その他事業 (環境関連事業等を含む) | ベンチ型の「スタンドコーチ」の売上増で、成約数は前年度を上回ったものの、前年度に納入したルーム型の大型物件の反動減までには至りませんでした。 |

| 品目区分 | 平成25年 | | 平成26年 | | 平成27年 | | 平成28年 | |
|--------------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
| | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 |
| ■ 防じんマスク | 3,532 | 47.2% | 3,701 | 49.3% | 3,787 | 48.7% | 3,950 | 49.8% |
| ■ 防毒マスク | 2,317 | 31.0% | 2,089 | 27.9% | 2,008 | 25.8% | 1,738 | 21.9% |
| ■ マスク関連その他製品 | 986 | 13.2% | 924 | 12.3% | 1,162 | 14.9% | 1,423 | 17.9% |
| 小計 | 6,836 | 91.4% | 6,716 | 89.5% | 6,958 | 89.4% | 7,112 | 89.6% |
| ■ その他 | 640 | 8.6% | 784 | 10.5% | 827 | 10.6% | 824 | 10.4% |
| 合計 | 7,476 | 100.0% | 7,500 | 100.0% | 7,785 | 100.0% | 7,936 | 100.0% |

※品目別売上高につきましては、子会社による販売がないため、親会社のみの数値を掲載しております。

トピックス

◇オープンクリーンシステム「KOACH」が米国科学誌で論文公開されました。

当社は、科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業の一環である『DNA解析用卓上型クリーンルームの開発』（広島大学、農研機構の共同研究）にオープンクリーンシステム「KOACH」の製造メーカーとして参加し、その成果が米国科学誌「BioTechniques」オンライン版で論文公開されました。

【掲載誌】

「BioTechniques」(Vol. 61, No. 1, July 2016, pp. 42-46)

【論文のタイトル】

(英文) Development of a bench-top extra-cleanroom for DNA amplification

(和文) DNA増幅のための卓上型エクストラクリーンルームの開発 (doi)

10.2144/000114433

【論文のポイント】

- ・すべてのDNA解析方法において、外来DNAの混入は重大で防ぎにくい問題だった。
- ・空气中を浮遊する微粒子が主な汚染源であり、実験器具の静電気も重大な要因であることを明らかにした。
- ・DNAの混入をほぼ完全に防止できる、DNA増幅用の卓上型クリーンルームを開発した。

※本論文に関するWebサイト

[KOACH採用ユーザーの論文情報](http://www.koken-ltd.co.jp/koach/voice.html)

<http://www.koken-ltd.co.jp/koach/voice.html>

卓上型エクストラクリーンルーム



テーブルコーチ「KOACH T 500-F」
+ 飛来物防止板(フード)
+ イオナイザ(除電器)

◇世界最上級のクリーン手袋を共同開発いたしました。

『KOACH』は、周りを囲うことなく短時間かつ低消費電力で世界最高クラスであるISOクラス1の清浄空間を形成するクリーンシステムとして、産業技術総合研究所様、理化学研究所様、京都大学iPS細胞研究所様、東京大学宇宙線研究所様等の研究施設ほか、民間企業にも採用が拡がりつつあります。また『KOACH』の開発者は、第6回ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞を受賞しております。

当社では、この『KOACH』の販売活動の中で、従来品に比べ、より発塵の少ないクリーンルーム用手袋を求めるユーザーが多数存在することを知ると同時に、『KOACH』内で製造・梱包すれば、“世の中で最も発塵しない”クリーンルーム用手袋の製品化が可能との発想に至りました。

そこで創業80年を超えるゴム・プラスチックの総合メーカーとして産業用から生活用品まで高い技術力を誇る「オカモト株式会社」が手袋自体の低発塵化を図り、かつ当社のスーパークリーン技術と融合することで世界最上級の清浄度・低発塵のクリーンルーム用手袋が生み出せると考え、商品化を目指すことといたしました。

平成28年末にはサンプル出荷を開始しており、平成29年3月から発売いたします。

<特長など>

- 製品名 ピュアネスゼロワン
- 世界初！※ ISOクラス1の環境で梱包されたクリーンルーム用手袋
- 徹底的な低発塵化を図り、世界最高レベルのクリーン環境で製造梱包
- 1双ずつ個装されているので、最後まで綺麗な状態で使い続けることが可能
- 左右別型で豊富なサイズ展開なのでフィット感が良く、手先の細かい作業にも適する



※当社調べ

ピュアネスゼロワン

次期見通し

(単位:百万円/端数切り捨て)

次期(平成29年12月期)における我が国経済は、国際的環境変化を伴い先行き不透明な状況が依然続くものと予想されます。

そのような経済環境のもと当社グループは、産業用マスクの需要を掘り起こし、医療、一般用マスクの市場シェアの安定的拡大を図って参ります。またオープンクリーンシステム「KOACH」は、確実に受注件数を伸ばしていることに加え、オカモト株式会社と共同開発したクリーン手袋販売との相乗作用による本格的立ち上げが期待できることから、売上高大幅増を図る事業展開を行って参ります。

以上により次期の業績は、売上高82億円(当連結会計年度比3.3%増)、営業利益6億40百万円(同0.9%増)、経常利益5億70百万円(同2.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益4億円(同3.0%増)となる見通しです。セグメント別の見通しは以下の通りであります。

| 区分 | 平成28年12月期 業績実績 | 平成29年12月期 業績予想 |
|---------------------|-------------------|-------------------|
| 売上高 | 7,936 | 8,200 |
| 営業利益 | 634 | 640 |
| 経常利益 | 554 | 570 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 388 | 400 |
| 1株当たり当期純利益 | 46円84銭 | 77円76銭 |

(マスク関連事業)

当社グループは、フィット性の高いマスクの開発とともに、それらの普及のためフィットの重要性を啓発する活動を産業、医療、一般のそれぞれの分野で継続して参ります。

産業分野においては、需要の拡大が見込まれる電動ファン付き呼吸用保護具の販売強化を続け、同保護具を含めた高付加価値製品を市場に供給して参ります。医療分野では、感染対策用マスク「ハイラック」シリーズの販売に引き続き注力いたします。同シリーズの感染防止に対する優位性を伝え全国の保健所や感染症指定医療機関等でのシェア拡大に努めて参ります。一般消費者用マスク「ハイラックNeo」シリーズについては、ネット通販をはじめとする国内外の新たな販売ルートを活用した販売戦略を推進します。

これら施策により、売上高は71億円(同0.2%減)となる見通しです。

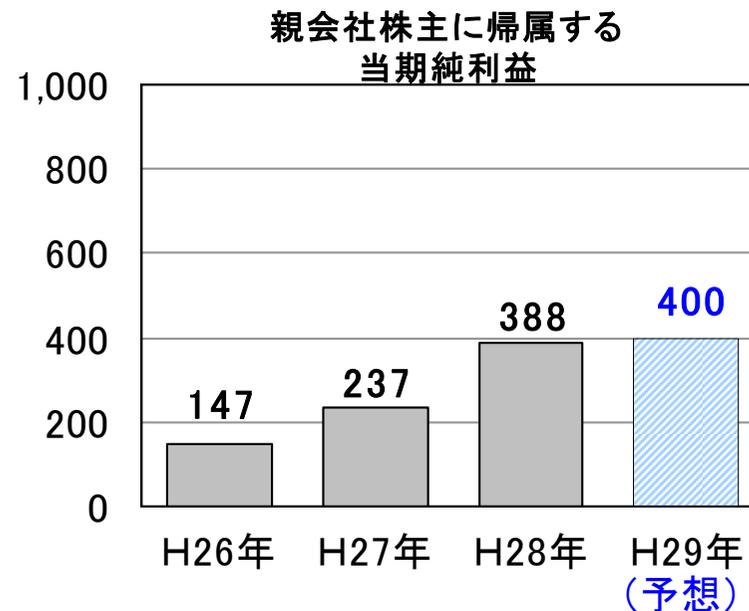
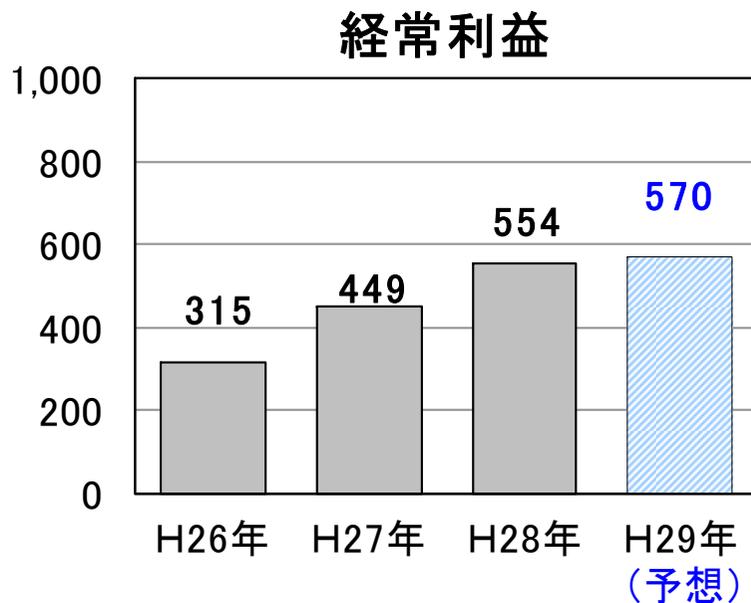
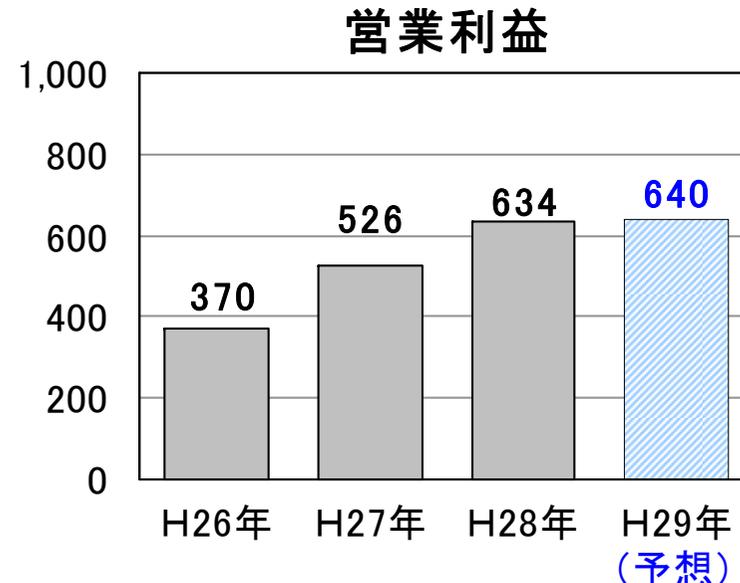
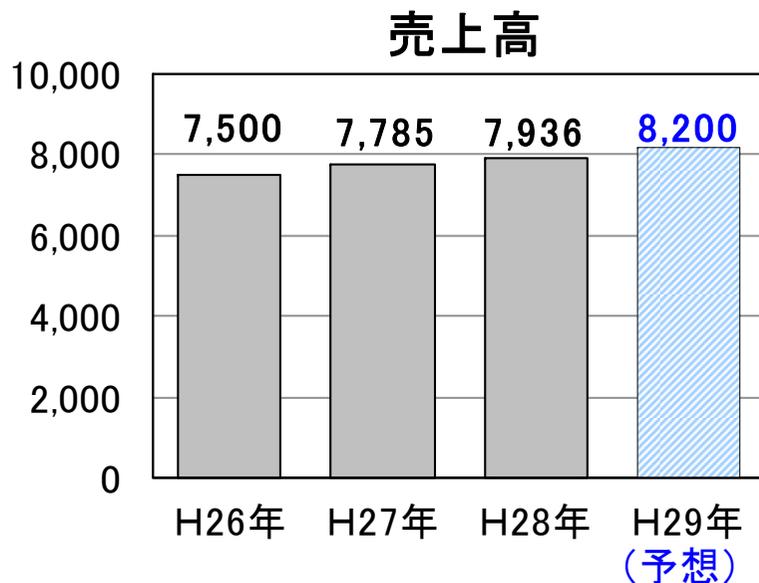
(その他事業/環境関連事業等を含む)

オープンクリーンシステム「KOACH」については、『アクチュアルクリーン(実際の作業中の清浄度)』を実現できるシステムとして、拡販に注力いたします。また本年3月からは、オカモト株式会社と共同開発したクリーン手袋の販売を開始する予定です。同製品は、世界最高レベルの環境から誕生したクリーンルーム用手袋で、当社クリーン事業のワンストップソリューションへの助けとなるだけでなく、現在当社グループが進めている啓発活動『アクチュアルクリーン』にも大いに役立つ商材です。

これらの事業展開により、売上高は11億円(同33.5%増)となる見通しです。

通期連結業績予想

(単位:百万円/端数切り捨て)



※平成26年12月期より、連結決算に移行しております。

本資料に記載されている業績予想数値等の将来に関する記述は、「平成28年12月期決算短信〔日本基準〕（連結）」発表日(平成29年2月10日)現在において、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
Eメール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp/>